
導きのウサギ

saika

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
導きのウサギ

【コード】
N6089J

【作者名】
saika

【あらすじ】
はじめまして、読者の皆さん。

最近、ウサギって不吉な話によく出てきますよね？

…アレ、意外と当たっているかもしれませんよ？

だってボクは…。

はじめまして、読者の皆さん。

ボクはウサギです。

しかもアルビノと言われる、体が白くて、赤目のウサギです。

ボクが住んでいるのは人里から離れた山の中です。

でもその山の中にも、人はいて、村があるんですよ。

ただすつごく閉鎖的なんですよ。

だからか、普通は愛玩動物として可愛がられるはずのボクにも、平気で物を投げてきます。

「このごく潰し！ とつととエサを連れて来い！」

そう言っつて石を投げってくるんですよ。

まあボクは身軽なので、避けて逃げますケド。

でもアレでもボクの食料を作ってくれる人々です。

ボクも何かしらのカタチで、彼等に与えなければいけないんですよ。

でも腹が減っては何とやら。

ボクは山を下りて、麓の村へやって来ました。

バス停近くには、無人の野菜売り場があるんですよ。

そこでジツとしていると、たまぁに人が通りかかって、ボクを見て、ニコニコしながらニンジンを買ってくれます。

山の中の人々よりも、こちらの人々には温情というものがあり、良いですねえ。

…でも、あそこで作られるエサは特別に美味しい。

あそこ以外では食べれないことをボクは知っています。

だからどんな仕打ちを受けようとも、あそこに居続けるんです。

美味しい食事を食べる為に。

おや？ 今来たバスから、見慣れぬ制服の女の子が降りて来ました。

たまぁにいるんですよね。

都会に疲れて、癒しを求めて、ここへ来る人間が。

女の子はバスから降りると伸びをしました。

そしてボクの姿を見て、笑顔になりました。

どうやら動物にも癒やしを求めている人みたいですよ。

女の子はニンジンを買ってくれました。

ボクは食欲が強いので、食べました。

お礼をしなければいけませんね。

まあボクにできることと言えば、あの村へ案内することだけですけど。

ボクは女の子に目で語りかけます。

ボクについて来て、と。

好奇心が強いみたいで、女の子はおもしろがってボクについて来ました。

しばらく山を登ると、あの村にたどり着きます。

ボクは近くにいた村人の足を、蹴り付けました。

村人はムツとしてボクを睨むも、女の子の姿を見ると、すぐに笑顔になりました。

「ようこそ！ いらっしやいー！」

久々のお客様です。

次から次へと村人が出てきました。

すると彼女は大歓迎を受けます。

村人総出で歓迎会を開きました。

女の子は戸惑いながらも、喜んでいました。

そして夕刻、女の子は帰る時間になりました。

村で1番の美形と言われる青年が、山の麓まで送って行きました。

…何やら、春の予感です。

さてさて、ボクの役目はまだあります。

次の日から、ずっとバス停で女の子を待ちました。

女の子は最初、一週間に一度来ていました。

それが二度、三度と増えていき…毎日来るようになりました。

それはきつと、村人が女の子を歓迎してくれるから。

そして青年に恋をしているから。

まあ…良いことですよね。

女の子はここに癒やしを求めに来たのです。

思いっきり優しくしてくれる人がいれば、人間すがり付きたくなる

ものなのでしょう？

まあウサギであるボクには、分からないことですけど。

最近では村人がエサをくれるようになり、ボクも幸せです。

ある日、女の子は村の外れの湖に、青年と共に来ました。

ボクはそこでお昼寝をしていたのですが…まあ寝たフリをしましょう。

ここで自己主張すれば、野暮ってモンです。

女の子は最初、暗い面持ちでした。

悩みを青年に話していました。

青年は終始笑顔で、話を聞いてあげていました。

そして話が終わる頃には、女の子は笑顔になっていました。

やがて夕刻になり、女の子の帰る時間になりました。

しかし女の子は中々帰ろうとしません。

それどころか…青年に、帰りたくはないと言ったのです。

その時、青年の表情が満面の笑顔になりました。

人間であったならば、ボクの顔も笑顔を浮かべていたことでしょう。

青年は女の子の言葉を、全面肯定しました。

「ここにずっといれば良いよ！」

青年があまりに強く、そして熱く言うので、女の子はおさね気味に頷きました。

そして 女の子はここに住むようになったのです。

やがて季節は巡り…山の景色も変わってきました。

しかし村人の女の子への態度は変わらず、優しいものでした。

女の子は見違えるほどにキレイに、美しくなりました。

どうやら青年と恋人になれたみたいです。

周囲からも祝福され、幸せ絶好調というところでしょうか？

…ところがある日、女の子に変化が表れました。

村人の家族を見て、ふと自分の家族を思い出したようです。

ここにいれば、学校へも行かず、自分を傷付ける者もないのに…。

それでも女の子の心は、揺れています。

恋しくなったのでしょうか。

わりと珍しいことではありません。

その内、女の子の表情が暗くなっていきました。

村人は心配しました。

けれど女の子の心の中には、元の生活や家族のことでいっぱいになってしまったのです。

そして…女の子は言うてはいけない、その一言を、口に出してしまつたのです。

帰りたい、と。

すると村人の表情が一変しました。

恐ろしい顔付きになり、そして…満面の嫌な笑みを浮かべながら、彼女に襲い掛かったのです。

ボリッ ガリッ ゴリッ ビジャッ

彼女は声を上げるヒマもなく、村人に食い殺されてしまいました。

やがて女の子を食い終えた村人達は、残念そうにため息をつきました。

「せつかくお嫁さんになってくれると思ったのに…」

「まあしょうがないな」

「残念だったな」

「でもまあ…ウマかったよ」

口元の血を舐めながら、村人達は満足そうでした。

そう、この村に来た外部の人間は、エサになるか村人になるかの、どちらかしかないんです。

何せ封鎖的な村ですからね。

肉にも飢えていますし、人口も年々減っています。

農業でやっていくにも、限界がありますからねえ。

閉鎖的なだけに、外部との表立っての接触は持たない。

ただ、ボクの連れて来る人間を、待つだけの存在。

けれどボクはその役目に満足していません。

だって…食い殺された人間の残骸で作られたエサって、とっても美味しいんですもん

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6089j/>

導きのウサギ

2011年1月27日13時57分発行